市立吹田市民病院　産婦人科外来からのお知らせ

トキソプラズマ抗体検査を開始します

2026年9月14日（月）～　妊婦健診の初期検査に導入



先天性トキソプラズマ症とは

妊娠中に妊婦さんが初めてトキソプラズマに感染すると、原虫が胎盤を通じて赤ちゃんに感染することがあります(母子感染)。感染が成立すると、水頭症や脳内石灰化、視力障害(網膜・脈絡膜炎)、肝臓や脾臓の腫れ、発達の遅れなどがみられることがあり、生まれたときには症状がなくても、成長してから症状が現れることもあります。感染した時期が早いほど赤ちゃんへの感染率は下がるものの症状は重くなりやすく、逆に妊娠後期の感染は感染率が上がるものの症状は軽いことが多いとされています。

ただし、妊婦さんが感染しても赤ちゃんに感染が成立するのは約3割程度で、感染が成立した場合でも多くは症状なく健康に育ちます。過度に心配しすぎず、検査を通じてご自身の状態を確認していただくことが大切です。



日本産科婦人科学会の最新ガイドラインでも推奨度が引き上げられました
「産婦人科診療ガイドライン産科編2026」（2026年4月刊行）より

※本検査は自費検査です（保険適用外）。料金は外来受付にてご確認ください。



対象となる方

当院で妊婦健診の初期検査を受けられる、すべての妊婦さんが対象です。妊娠初期の血液検査の際にトキソプラズマIgG・IgM抗体を測定します。追加の採血や特別なご準備は必要ありません。

他院ですでに妊婦健診の初期検査を受けられ、トキソプラズマ抗体検査がお済みでない方も、当院で検査を受けていただけます。ご希望の方はスタッフにお申し付けください。

この検査が大切な理由

先天性トキソプラズマ症は、検査による早期発見・早期治療で予防できる数少ない胎児感染症です。



感染歴の有無がわかります

IgG抗体で過去の感染歴、IgM抗体で最近の感染の可能性を調べます。日本人妊婦さんの90%以上は感染したことがなく、検査で自分の状態を正確に知ることができます。



妊娠中の感染予防に役立ちます

感染歴のない方（IgG陰性）には、加熱不十分な肉やネコとの接触など、妊娠中に新たに感染しないための生活上の注意点をご案内します。



赤ちゃんの状態を早期に確認できます

妊娠中の初感染が疑われる場合は、超音波検査で赤ちゃんの状態を確認し、必要に応じて大阪大学病院などの高次施設へご紹介します。



早期治療で赤ちゃんへの感染を予防できます

適切な時期からスピラマイシンの内服を開始することで、赤ちゃんへの感染を最大60〜86%程度予防できるとされています。放置すると水頭症や視力障害など重い症状につながることがあります。

ご不明な点やご不安なことがあれば、診察時に担当医師・助産師までお気軽にご相談ください。

参考：「トキソプラズマ妊娠管理マニュアル 第8版（2026年2月改訂、AMED）」「産婦人科診療ガイドライン産科編2026（日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会）」

本ページの作成にあたり、生成AIツール（Claude、Anthropic）を文書作成補助として使用しました。